今週の為替相場見通し（2023年10月10日）

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	（円）		147.30 ～ 150.16	149.30	147.50 ～ 150.50
ユーロ	（ドル）		1.0448 ～ 1.0600	1.0587	1.0400 ～ 1.0650
（1ユーロ=）	（円）		154.39 ～ 158.41	158.06	155.00 ～ 159.00
英ポンド	（ドル）		1.2039 ～ 1.2261	1.2232	1.2000 ～ 1.2500
（1英ポンド=）	（円）	*	178.18 ～ 182.98	182.73	180.00 ～ 185.00
豪ドル	（ドル）		0.6286 ～ 0.6445	0.6385	0.6250 ～ 0.6500
（1豪ドル=）	（円）	*	93.07 ～ 96.42	95.34	94.00 ～ 96.00

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

金融市場部　為替営業第一チーム　松木　悠馬

（1）今週の予想レンジ：　147.50 ～ 150.50 円

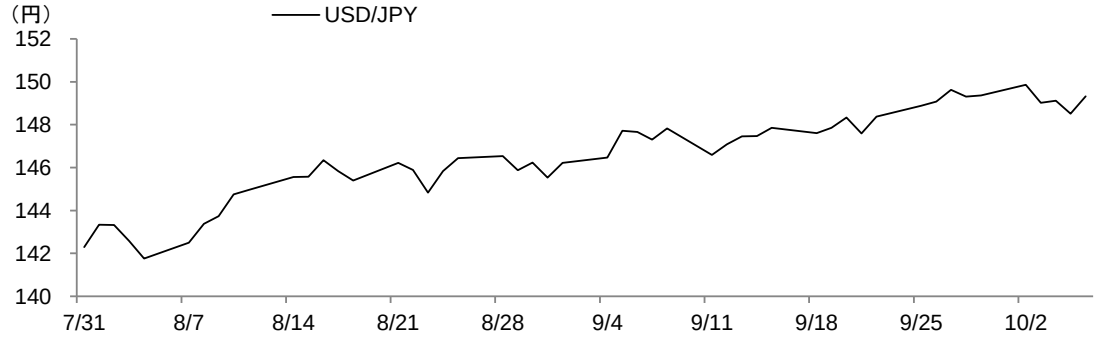
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、節目の150円を突破後に急落も、すぐに値を戻し、その後は上値の重い推移となった。週初2日、149.52円でオープンしたドル/円は、米政府閉鎖が回避されたことに伴うリスクオン相場により、149円台後半でじり高。海外時間は、米金利が上昇する中で続伸も、節目の150円を前に上値の重い推移と なった。3日、ドル/円は材料難の中、149円台後半でレンジ推移。米8月JOLT求人件数の強い 結果を受けた米金利上昇に合わせ、昨年10月以来の高値となる150.16円に続伸。直後、強烈な円買いが 入り、一時週安値となる147.30円に急落も、米金利上昇に149円付近に値を戻した。4日、ドル/円は米金利が高止まりする中、149円台前半でじり高推移。海外時間は、米9月ADP雇用統計の軟調な結果を受け、米金利低下に合わせ149円を割り込んだ。5日、ドル/円は仲値後にかけ148円台前半に下落も、一巡後は値を戻した。米新規失業保険申請件数の強い結果を受け149円台に乗せる場面もあったが、米金利が低下に転じる流れに合わせ148円台半ばに反落した。6日のドル/円は、海外時間に発表された米9月雇用統計にて非農業部門雇用者数が市場予想比を大幅に上回るとドル/円は149円台半ばまで上昇。その後は一時ドル売りに値を下げるも結局149.30円で越週した。

今週のドル/円相場は底堅くも上値重い推移を予想する。今週は米9月CPI、PPIを中心にインフレ指標の発表やFOMC議事要旨（9月開催）、多数のFED高官発言を控えている。足許の良好な米経済を背景として高い水準での金利維持長期化が意識されていることもあり米長期金利は大きく上昇基調。加えて、中国やユーロ圏中心に景気腰折れ感が強まっていることも相俟って他通貨比でのドル買い圧力は強い。今週はインフレ指標の結果に一喜一憂するだろうが、米9月CPIにてコアインフレの上昇が確認された場合には未だ底堅い労働市場等も後押し材料となり、年内利上げ観測の高まりにドル買いが強まると予想する。上値の重さは金利上昇による株式市場の更なる軟化や為替介入への警戒感が主要因だろう。特に後者について、先週150円を抜けたタイミングではドル/円が大きく下落したことも意識されやすく、財務省高官の「ノーコメント」発言を受け市場が疑心暗鬼になる中、積極的な高値追いは想定されにくいか。週末報じられたイスラム組織ハマスによるイスラエルへの攻撃はリスクオフ的なドル買い・円買いともに想定されドル/円レンジへの影響は限定的と予想する。

（3）先週までの相場の推移

先週（10/2～10/6）の値動き：　安値 147.30 円　高値 150.16 円　終値 149.30 円



（資料）ブルームバーグ

2. ユーロ

金融市場部　為替営業第二チーム　西　拓也

(1)今週の予想レンジ:　1.0400　～　1.0650　　155.00　～　159.00　円

(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

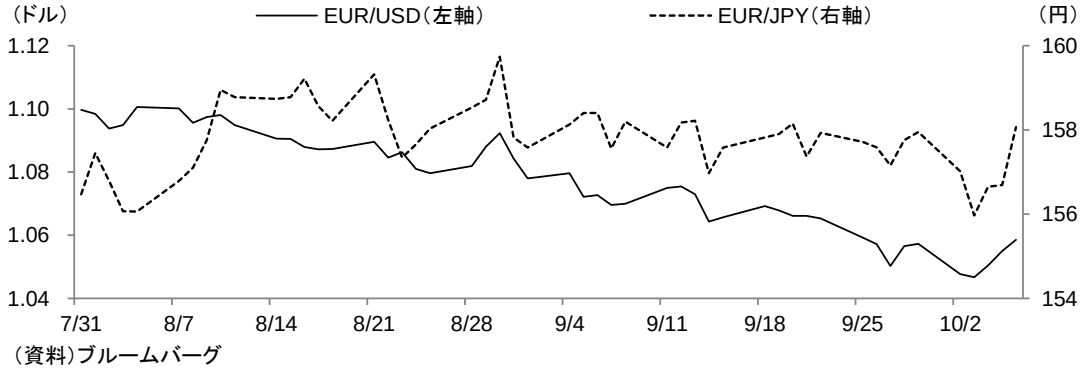
先週のユーロ/ドルは、ドル買いが続く中、1.05台を割り込むも、その後は値を戻す展開となった。週初2日、1.0564でオープンしたユーロ/ドルは、米金利が上昇する中、デギンドスECB副総裁による目先のインフレ鈍化に対し自信を見せる発言が材料視され、1.04台後半に下落した。3日、ユーロ/ドルは、米独金利差拡大で、年初来安値となる1.0448に続落。4日、ユーロ/ドルは、弱い米経済指標を受けた米金利低下や欧州株の反発を背景に、1.05台を回復した。5日、ユーロ/ドルは1.05台前半で方向感なく推移した後、デイリー・サンフランシスコ連銀総裁による追加利上げを不要と示唆するハト派な発言を受け、米金利が低下に転じる流れに合わせ、1.05台半ばに上昇した。6日、米9月雇用統計にて非農業部門雇用者数が予想を大きく上回ると米労働市場が依然逼迫しているとの見方からドル買いで反応し一時1.05台を割り込むも、その後は米金利低下を横目にユーロ/ドルは上昇に転じ1.06ちょうどまで戻す展開。結局、1.0587で越週した。

今週のユーロ/ドル相場は上値の重い展開を予想。先週は、デギンドスECB副総裁のインフレ鈍化を示唆する発言や米経済指標の良好な結果などを背景に、心理的な節目である1.05台を割り込み、1.0448まで年初来安値を更新した。一服後にラガルドECB総裁によるタカ派的な発言や米金利低下を受けて値を戻したが、節目の1.06ちょうどでは上値を押さえられている状況。先週発表された独9月PMIについては、非製造業では辛うじて50を上回ったが製造業では39.6と軟調な結果となった。足許でエネルギー価格が上昇する中で欧州経済への先行き不透明感は根強く、積極的なユーロ買いとはならないものと見ている。中東情勢の緊迫化も原油相場を押し上げており、不透明感を高める要因となりそうだ。今週はECB当局者の発言が多く予定されている。中でもタカ派と目されているオーストリア中銀のホルツマン総裁、オランダ中銀のクノット総裁の発言にてハト派的な見解が示されれば、ECBによる利上げ打ち止め観測が強まり、欧米金利差拡大を背景としたユーロ/ドル相場の重石となるだろう。他方、米国では11日(水)にFOMC議事要旨、12日(木)に米9月消費者物価指数、その他Fed高官の発言を多数控えており、ドル主導での相場展開にも警戒が必要だ。

(3)先週までの相場の推移

先週(10/2～10/6)の値動き:　(対ドル)　安値　1.0448　高値　1.0600　終値　1.0587

(対円)　安値　154.39　高値　158.41　終値　158.06



(資料)ブルームバーグ

3. 英ポンド

欧州資金部　中島　將行

(1)今週の予想レンジ:　1.2000　～　1.2500　　180.00　～　185.00　円

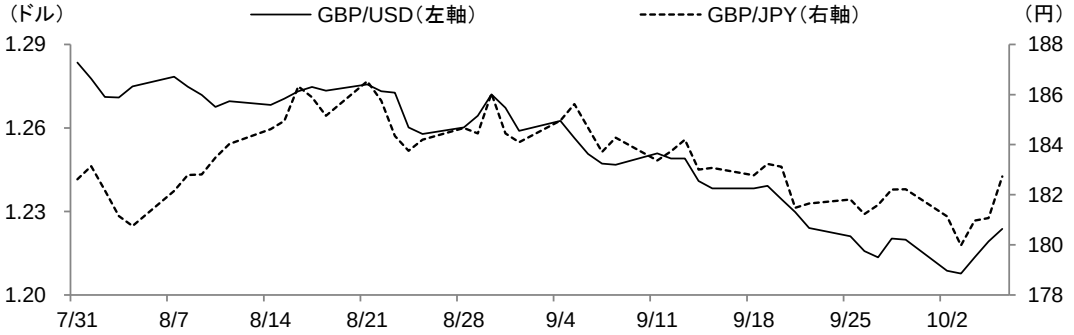
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

過去1週間のポンド相場は米金利がいったん低下したこともあり、対ドルで上下に振れ幅の大きい展開となったが、10月6日に公表された9月分の米雇用統計で非農業部門雇用者数が33.6万人の増加と、市場予想の17万人増を倍近く上回る結果となったことを受けて、終盤にポンド安・ドル高が優勢となった。対ユーロではポンド高が進んだほか、対円では10月4日にドル/円が150円をつけた後に急落したことを受けてポンド/円もいったん7月末以来となる180円割れの水準まで下落したものの、その後、間もなく180円台を回復している。経済指標では10月4日に発表された9月分の英サービス業PMIが速報値の47.2から49.3へと大幅に上方修正されたことが注目を集めた。9月29日に発表された2023年4～6月期の実質GDP成長率は、新たな手法を使って算出した結果、従来見込んでいたよりも2%大きいことが判明したと発表されている。一連の経済指標の大幅な上方修正は、英経済に対する悲観論を(やや)後退させ、イングランド銀行(BOE)が高水準の政策金利を長期間維持する可能性をより高めるものとなろう。BOEのベイリー総裁は10月4日に、今年の英国のインフレ率は5%以下に低下する可能性があるとする見解を示す一方で、インフレ退治の「仕事は終わっていない」としている。先週は政治面でも動きがあった。スナク首相は10月4日にマンチェスターで開かれた保守党大会において、高速鉄道「HS2」の計画を縮小し、第2期の着工はせず、代わりに地方の交通網の整備を進める方針を明らかにしている。スナク首相は先月にもガソリン車の販売を禁止する期限を2035年まで先送りするなど、過去の保守党政権が決めた政策を相次いで覆している。英国のメディアの論調では、こうしたスナク氏の姿勢を「現実路線」「変革者」と褒めたたえる向きもある一方、キャメロン元首相ら過去の首脳が批判的な見解を示しており、保守党内での内紛を意識させる状況となっている。こうした中、就任からわずか45日で辞任したトラス前首相がスナク氏に批判的な勢力を取り込み再び台頭しようとしているという見方も盛んに報じられており、保守党内は混沌としている模様だ。もっとも、2025年1月までに実施される総選挙では、労働党への政権交代の可能性が高まっており、保守党の内紛はそれほど市場では重要視されている模様だ。実際に、10月5日にスコットランドの最大都市グラスゴーで行われた下院の補欠選挙では労働党が勝利し、スコットランド独立派の議席を4年ぶりに奪還するなど勢いを改めて示している。

今週1週間のポンド相場は、想定以上に強かった米雇用統計の結果を受けて、少なくとも対ドルでは圧迫される展開が継続しそうだ。10月11日のFOMC議事要旨の公表や、10月12日の米9月CPI前後では相場が再び大きく動く可能性があるだろう。一方、9月分のサービス業PMIや、2023年4～6月期の実質GDPの大幅上方修正を受けて、英国経済の現在の立ち位置に対する認識の修正が進んでおり、ユーロや日本円など他の主要通貨に対してポンドが堅調に推移する可能性は高いと見ている。BOEの高官発言では、12日にピル・チーフエコノミスト、13日にはベイリー総裁の講演が控えている。利上げが一段落したという見方を示す一方で、高水準の政策金利を長期間継続する方針が改めて示されるものと見られる。

(3)先週までの相場の推移

先週(10/2～10/6)の値動き:　(対ドル)　安値　1.2039　高値　1.2261　終値　1.2232
(対円)　安値　178.18　高値　182.98　終値　182.73



(資料)ブルームバーグ

4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部　シドニー室　川口　志保

(1)今週の予想レンジ:　0.6250　～ 0.6500　　94.00　～　96.00　円

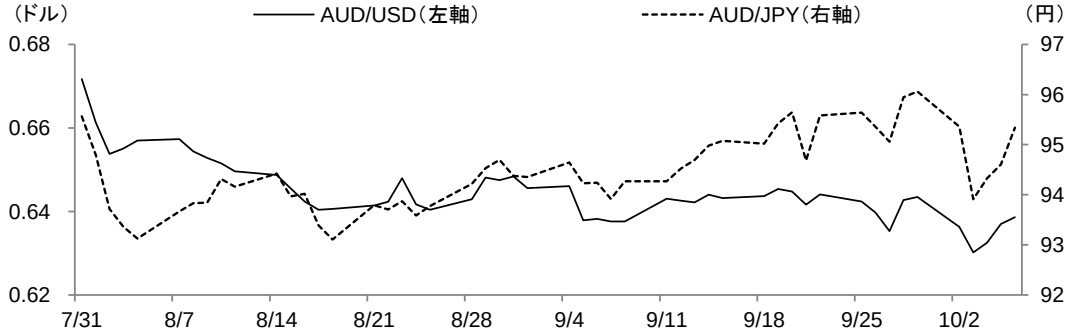
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週は0.6438でスタートし、米債利回りが上昇する動きにドル買いが進行し豪ドルは年初来安値を0.6286まで更新した。週末金曜にかけては米株が上伸する動きに支えられ、0.63台後半まで戻した。2日は豪州がレイバーデーで祝日、中国が国慶節で休場で薄商いの中、0.64半ばから0.63半ばまで豪ドル安が進行。米政府機関の閉鎖が免れた事で市場の焦点は「インフレ抑制には政策金利を高水準で据え置く(もしくは追加利上げの)必要がある」とした複数米金融当局者の発言に移り、11月の米利上げ観測が高まった事で米国債利回りが大幅上昇した。ドル買いが先行する中、0.6363まで下落。3日は朝から下押しする展開が継続。RBAは政策金利を大方の市場予想通り据え置きとし、声明文では一定の追加金融引き締めが必要になる可能性を示唆。利上げはデータ、リスク動向次第と繰り返した。その後もドル買いが先行する中で下げ続け、米8月JOLT求人で米雇用環境の底堅さが示されると、ドル買いに拍車がかかり、豪ドルは年初来安値を0.6286まで更新。この他NY時間に円安介入が観測され、ドル/円が150.16円まで上昇後、147.43円までフリーフォールしする動きに豪ドル/円は94.40円近辺から一時93.066まで下落した。4日は0.63近辺でスタート。RBNZによる政策金利据え置きを受け、タカ派失望感からAUD/NZDは1.0660近辺から1.0710近辺へ上昇した。米9月ADP雇用統計や米9月ISM非製造業景況指数が予想比下振れた事で米債利回り上昇が一服し、一時0.6342まで上昇。5日は0.6324～0.6377のレンジで振幅後、米新規失業保険申請件数、失業保険継続受給者数が共に予想比を下振れ、労働市場の強さが足許でも継続している事が示されると、米株式が小幅反落する動きに豪ドルは一時0.6330近辺まで下落。但し流れが一巡すると、今度は米債利回りが低下する動きに豪ドルは再浮上し、0.6370でNY引けとなった。6日は米9月雇用統計を控えアジア・ロンドン時間は0.6355～0.6382の比較的ナローレンジで推移。米9月雇用統計は非農業部門雇用者数が前回値、予想値を共に上回ったほか、前回値も上方修正され、米追加利上げ論拠が強まった。発表直後は0.6361から0.6315近辺まで下落したものの、流れが一巡すると株価が反発する動きに追随しNY引けにかけて0.64ちょうどまで上昇し0.6385で越週。週明け9日は中国が国慶節から戻ってきたものの、日本が祝日休場でアジア時間は引き続き薄商いとなった。

今週は主に先週金曜の米雇用統計を消化しながら推移するとみる。米雇用統計が予想を上振れた事で市場の見方はFOMCが年内再利上げする向きに傾斜したとみられるものの、一部で現状米経済はゴルディロックス相場で、ディスインフレ状態となっているとの見方も引き続きある。故にインフレが加速する方向に傾斜するデータが続く場合は市場の動きに注意したい。加えて、米利下げ時期がより後退している事にも注意し、豪ドルの頭がどの程度押さえられるのか見ていきたい。今週は10日(火)にNY連銀1年インフレ期待、11日(水)RBAケント総裁補のスピーチ、米9月PPI、FOMC議事要旨、12日(木)米9月CPI、13日(金)中国9月CPI、米10月ミシガン大学期待インフレ率などが発表予定。豪州国内からの材料は少なく、今週一週間は主に外部要因がドライバーとなる。

(3)先週までの相場の推移

先週(10/2～10/6)の値動き:



(資料)ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。